

勝呂隆男氏の「適正在庫三部作」が完成 最新刊「適正在庫のテクニク」を発売

在庫理論のスペシャリストとして本誌でもお馴染みの勝呂隆男TSCコンサルティング代表が、新たに「適正在庫のテクニク」(在庫理論APIEM) (日刊工業新聞社)を上梓した。既刊の「適正在庫の考え方・求め方」(同)、「適正在庫のマネジメント」(同)に続くシリーズ第三段で、著者による「在庫三部作」が完成した格好だ。

在庫管理のゴールはゼロ化ではなく、適正化だと著者は主張する。現在、多くの会社が「在庫は悪だ」という認識に立って無在庫経営を目指している。しかし、完全受注生産で顧客に納期を約束す

『適正在庫のテクニク』(在庫理論APIEM)著者 勝呂隆男 出版社 日刊工業新聞社 出版年 二〇〇六年三月 定価 二二〇〇円(税込)



る必要もないビジネス以外、実際に在庫をゼロにすることなど不可能だ。

需要を完全に予測することはできない。部材の調達やサプライチェーン・プロセスには、常に不確定性が伴う。それを埋めるバッファとなるのが在庫だ。その役割を軽視して、在庫削減を急ぐあまり一律半減などの乱暴な施策を実施すれば、大量の欠品や納品の遅れを招き、かえって経営を悪化させてしまう。

ロジスティシャンは在庫を適正化するための理論とテクニクを学ぶ必要がある。著者の適正在庫シリーズは、その指南書として利用できる。とりわけ新刊の「適正在庫のテクニク」は、二冊の既刊書を基に在庫管理の基本的な考え方からマネジメントレベルの改革手法まで、具体的な手順をわかりやすく説明している。表計算ソフトの「エクセル」を使って適正在庫を簡単に計算する方法にも一章を割いている。

在庫管理を一度きちんと学んでみたい、現在の管理手法が本当に正しいのか確認したい、といった実務家の期待に応える実践的な内容に仕上がっている。

中部国際空港に新拠点 DHL ジャパン

デー・エイチ・エル・ジャパンは三月十三日、「中部国際空港ゲートウェイ施設」をオープンした。通関や保税倉庫機能を持つ拠点を中部国際空港内に置くことで、輸出入に関わるオペレーションを迅速化、輸送時間の短縮と集荷受付時間の延長を実現する。

中部国際空港を利用する貨物については、これまで名古屋港区の名古屋中央サービスセンターが通関や保税倉庫の機能を果たしてきた。今後は滑走路に面した新しいゲートウェイ施設でこうした処理を行えるようになる。オペレーションの効率化で、輸送所要時間は最大一日短縮される。また、新施設は貨物の集配拠点としての役割も果たすため、施設周辺地域の集荷受付締め切り時間が最大三時間延長できる。

ゲートウェイとは通関や保税倉庫機能を持つ専用の保税上屋のこと。新施設の総面積は八〇〇〇平方メートル。うち倉庫面積が五〇〇〇平方メートルで、庇下面積が三〇〇〇平方メートル。当面の貨物仕分けは手作業で行う。処理能力は一時間当たり三〇〇〇個。〇七年をめどに自動仕分け機の導入を計画しており、導入後は三倍の九〇〇〇個の仕分け処理が可能になる見込み。また、貨物の動きをリアルタイムで監視し、貨物の運行状況の把握や危機



記念式で握手するDHLエクスプレスのスコットブライス アジア太平洋地区CEO (左)と中部国際空港の平野幸久社長

管理を行う「クオリティ・コントロール・センター」も稼働する。

同社は九九年から日本国内のインフラ強化を進めており、計二〇〇億円の投資を行ってきた。中部国際空港が開港した〇五年以降は東海・北陸地方に新しい集配施設を開設。今回のゲートウェイ開設で、陸・空両面において中部地区のネットワークが大幅に増強された。中部地区には自動車やエレクトロニクスなど国際競争力の高い企業が位置しており、こうした企業の国際物流に対する需要を見込んでいる。

オープニングセレモニーの席上で、DHLジャパンのギンター・ツォー社長は「エア・エクスプレスに求められるのは何と云ってもスピードだ。さらなるスピードアップを実現し、向こう数年で日本での取扱量を三倍にしたい」と意気込みを語った。